

2014年8月15日
発行/日本共産党市議団地域版
自宅/市川市菅野2-14-14-206
Tel/fax 047-323-3640
携帯 090-6310-3294
shimizu@jcp-ichikawa.com
ブログが新しくなりました
http://jcp-shimizu.sblo.jp

日本共産党市議会議員

清水みな子

あおぞらメール No. 7 4



住民の要望実現へ全力で取り組む 福祉部、子ども部と懇談

9月議会に向けて、住民要求の実現へ、「市川の特養ホーム待機者ゼロをめざす会」のメンバーとともに、7月25日、福祉部と懇談。8月8日には、市長に対する「子ども・子育て支援新制度の実施に関する申し入れ」を子ども部に行い懇談し、要望しました。

▽福祉部△

「待機者ゼロの会」で署名など取り組みをはじめから、何度か福祉部と懇談してきました。3年ごとの整備計画について、1年目から特養ホームを建設してほしいと要望してきました。第5期計画までは1年目はゼロ、

2年目、3年目で各1箇所ということを繰り返してきましたが、27年度からの「第6期計画」では1年目から1箇所100床の特養ホームを建設することを前提に、公募を始めているということがわかりました。繰り返し要望してきたことの成果だと思っています。



また、これまで市は「真に特養ホームが必要な人は約200人」と繰り返し説明してきましたが、優先的な入居が必要とする条件を設定して「要介護3以上で独居の人は350人」と把握しているという説明もありました。しかし、待機者は市内に900人以上います。

さらに、市民が寄付した土地（宮久保下貝塚）に、特養ホームを建設してほしい

という要望はどうなったのか、説明を受けました。市は「福祉部からは宮久保の土地に特養ホーム建設希望は手を挙げているが、庁内の協議会で決定すること」「いつ協議会が開かれるかわからない」というものでした。

▽子ども部△

会では、さらに、特養ホーム建設を加速させるように、署名活動などで市民にアピールすることにしています。



4月から実施する準備をすすめています。

そこで、市議団では、「子ども・子育て支援新制度の実施に関する申し入れ」を作成し市長へ要望書を提出しました。

対応は子ども部吉光部長と大野次長です。

まず、子育て支援の基本の考え方について、「子どもの最善の利益」を確保することを基本にすすめること。新制度の実施に当たっては、保育格差を生じさせないこと、保護者への説明、意見をしっかりと汲み取ること、企業参入の余地をせばめていくこと、職員体制を強化すること、など申し入れました。

部長からは「国の指針がまだ下りてこないなかで、作業が大変であること。保育士が集まらない問題も解決しなければならぬこと。保育園関係者へは十分に説明会を開かないといけないと思っている」ということなどが話されました。申し入れについては、十分に検討して回答するように求めました。

小池晃副委員長を迎えて



7月12日午後6時半から、市川市文化会館小ホールで、日本共産党演説会をおこないました。来年のいっせい地方選挙勝利へむけた全国遊説の第1弾として、小池晃副委員長を迎えて、演説会がひらかれました。会場いっぱいの参加者であふれました。初参加の方もたくさんおり、「小池さんのお話はわかりやすく、ユーモアがあり、最高でした。来てよかった」という感想を聞きました。演説会では、浦安の弁護士さんが応援のメッセージ、岡田幸子県議の元気な訴え、浦安市議の元木美奈子さん、市川市議団を代表して金子貞作さんが決意を述べました。

屋を立てて、海上からの監視もしています。印象に残った言葉。「勝つ方法はあきらめないこと」「クマノミの絵が描かれた横断幕です。真っ青な海、自然の宝庫である沖縄を絶対に米軍の好き勝手にはさせないの思いを新たにしたい。沖縄の旅でした。」

「標的の村」への旅 高江 辺野古 辺り

映画「標的の村」を鑑賞した仲間から「ぜひ現地に行きたい。応援したい」と声があがり、新婦人支部が企画・主催して、「標的の村」への旅を行いました。7月15日から17日までの3日間、男性3名を含む総勢18名で出かけました。

1日目、那覇空港から一路、北部「やんばる」へ向いました。目的地・東村高江です。「国に訴えられた東村・高江の住民たち」がたかっている場所です。「ヤンバルの豊かな自然を守りたい。家族を守りたい」と、事



故が多発している「オスブレイ」の着陸帯が自宅のすぐ近くに建設されると聞き、やめてくれと声をあげた高江の皆さん、6人の子どもを抱える安次嶺さんが「住民の会」をつくり座り込んだとこ

ろ、国に「通行妨害」と訴えられた前代未聞の裁判です。県内から支援の皆さんが泊まり込みで監視しています。

私たちも寄せ書きと激励カンパを送り、短時間ですが一緒に座り込みました。暑い暑い沖縄での風を共有した思いがしました。

2日目は、辺野古へ移動。ここでも、テント小



★7月26～28日 仙台で自治体学校

今年のテーマは「被災地で学ぶホンモノの地方自治」です。記念講演は「日本国憲法の地方自治」を書き下ろした杉原泰夫一橋大学名誉教授。そして、被災地からの報告。浪江町長さん、河北新報の記者さん、町長以下40人の職員が犠牲となった岩手県大槌町の保健師さんのお話。涙なしでは聞けません。上司や同僚が亡くなり、なぜ自分が生き残ったのか自問自答し、自治体労働者はどうあるべきなのか、4人の子どもたちを後回しにして町民のために働いてきた3年間を振り返り、報告しました。時々涙で言葉につまりました。考えることが多い学校でした。



《主な活動報告 7月》

★7月22日 市内を平和行進が行く

「核兵器のない世界 非核と九条が輝く日本へ」と毎年、北海道から出発した平和行進は各市町村をリレーして市川市へ、江戸川区へと引き継ぎました。昨年を超える25団体215人が参加し、沿道の皆さんへもアピールしました。

★7月23日 JAL 争議支援決起集会

東京高裁不当判決報告決起集会が開かれ180人が参加。「闘いの軌跡」上映、弁護団報告、原告団の決意表明。「あの空へ帰ろう」を合唱。

